

# LaTeX によるインタラクティブ論文作成のガイド (インタラクティブ発表, ポスター発表)

志築 文太郎<sup>†</sup> 河野 恭之<sup>††</sup>, 角 康之<sup>†††</sup>

## How to Typeset Your Papers in LaTeX (Interactive/Poster Session)

BUNTAROU SHIZUKI,<sup>†</sup> YASUYUKI KONO<sup>††</sup> and YASUYUKI SUMI<sup>†††</sup>

### 1. はじめに

このパンフレットは, インタラクティブシンポジウムのインタラクティブ発表とポスター発表に投稿する予稿, 並びに掲載が決定した予稿の最終版を, 日本語 LaTeX を用いて作成し提出するためのガイドである.

### 2. 予稿の作成方法

「インタラクティブ論文投稿用 LaTeX スタイルファイル」の使用法に従って予稿を作成すれば良い。「インタラクティブ論文投稿用 LaTeX スタイルファイル」はインタラクティブシンポジウムの Web ページからダウンロードできる.

### 3. 留意すべき点

インタラクティブ発表用およびポスター発表用原稿を作成する際に払うべき留意点を以下に示す.

- ページ数の制約に注意して頂きたい. ページ数は刷り上がりで 2 ページである.
- インタラクティブ発表用原稿からは, 和文概要と

英文概要を除く必要がある. これは原稿用ソースファイルから abstract 環境および eabstract 環境をコメントアウトすれば良い. ポスター発表用原稿もこれに準じる.

- コマンドや書式の詳細は一般講演用のサンプルソース (IntSample.tex) を参照されたい.

謝辞 本ガイドのオリジナルは情報処理学会論文誌投稿マニュアル (<http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/shippitsu/wabun.html>) である.

### 参考文献

- 1) Lamport, L.: *A Document Preparation System LaTeX User's Guide & Reference Manual*, Addison Wesley, Reading, Massachusetts (1986). (Cooke, E., et al. 訳: 文書処理システム LaTeX, アスキー出版局 (1990)).
- 2) 伊藤和人: LaTeX トータルガイド, 秀和システムトレーディング (1991).
- 3) 桜井貴文: 直観主義論理と型理論, 情報処理, Vol.30, No.6, pp.626-634 (1989).
- 4) 野口健一郎, 大谷 真: OSI の実現とその課題, 情報処理, Vol.31, No.9, pp.1235-1244 (1990).
- 5) Itoh, S. and Goto, N.: An Adaptive Noiseless Coding for Sources with Big Alphabet Size, *Trans. IEICE*, Vol. E74, No. 9, pp. 2495-2503 (1991).
- 6) 田中正次, 村松 茂, 山下 茂: 9 段数 7 次陽的 Runge-Kutta 法の最適化について, 情報処理学会論文誌, Vol.33, No.12, pp.1512-1526 (1992).
- 7) Abrahamson, K., Dadoun, N., Kirkpatrick, D.G. and Przytycka, T.: A Simple Parallel Tree Contraction Algorithm, *J. Algorithms*, Vol.10, No.2, pp.287-302 (1989).

<sup>†</sup> 筑波大学コンピュータサイエンス専攻  
Department of Computer Science, University of Tsukuba

<sup>††</sup> 関西学院大学理工学部  
School of Science and Technology, Kwansai Gakuin University  
現在, プリンストン高等研究所 (嘘です)  
Presently with Institute for Advanced Study, Princeton (just joke)

<sup>†††</sup> 京都大学情報学研究所  
Graduate School of Informatics, Kyoto University  
実際の著者は情報処理学会 論文誌編集委員会である.

- 8) 田中正次ほか：9 段数 7 次陽的 Runge-Kutta 法の次数条件式の解について，情報処理学会論文誌，Vol.33, No.12, pp.1506–1511 (1992).
- 9) Chang, C.L. and Lee, R. C.T.: *Symbolic Logic and Mechanical Theorem Proving*, Academic Press, New York (1973). (長尾真，辻井潤一訳: 計算機による定理の自動証明, 日本コンピュータ協会 (1983)).
- 10) 新世代コンピュータ技術開発機構：第五世代コンピュータプロジェクトの概要，FGCS'92 にて配布 (1992).
- 11) 情報処理学会論文誌編集委員会： $\text{\LaTeX}$  による論文作成のガイド (第 1 版) (1995). (論文著者に配布).